

File Defender[®]

クライアントマニュアル

ver 1.4.6



目次

第1章 ご利用にあたって.....	1
1.1 はじめに	1
1.2 File Defender について	1
1.3 動作環境	2
1.4 動作保証アプリケーション.....	2
第2章 ご利用の流れ.....	3
第3章 インストール・アンインストール.....	4
3.1 概要	4
3.2 ダウンロード	4
3.3 インストール.....	5
3.4 アンインストール.....	8
第4章 ログイン	10
4.1 概要	10
4.2 クライアント起動.....	10
4.3 ネットワーク設定	11
4.3.1 新規登録.....	11
4.3.2 削除.....	13
4.4 ログイン	14
第5章 メイン画面	15
5.1 概要	15
5.2 ユーザー情報.....	15
5.2.1 パスワード変更	16
5.3 ファイル操作ログ.....	18
5.4 設定	19
5.4.1 言語切り替え.....	20
5.4.2 アップデート.....	21
5.4.3 復元.....	22
5.5 ヘルプ・サポート	23
第6章 ファイル暗号化	24
6.1 概要	24
6.2 画面表示	24
6.3 プロジェクト参加者確認	25
6.4 暗号化.....	26
6.4.1 全公開	26
6.4.2 公開グループ指定	28
第7章 フォルダ暗号化	34
7.1 概要	34
7.2 暗号化フォルダ画面の表示.....	34

7.3	暗号化フォルダ画面	35
7.4	暗号化情報画面	36
7.5	暗号化フォルダ新規登録	37
7.6	暗号化フォルダ編集	40
7.7	暗号化フォルダ削除	42
7.8	暗号化フォルダ有効化/無効化	44
第 8 章	復号	46
8.1	概要	46
8.2	画面表示	46
8.3	復号	47
第 9 章	ファイル詳細	48
9.1	概要	48
9.2	画面表示	48
第 10 章	ログアウト・終了	49
10.1	概要	49
10.2	ログアウト	49
10.3	終了	51
第 11 章	ファイルの操作制御	52
11.1	概要	52
11.2	ファイルを開く	52
11.2.1	制御操作	54
11.2.2	禁止操作	55
11.3	ファイルを保存する	57
11.3.1	上書き保存する	57
11.3.2	別名で保存する	59
第 12 章	トラブルシューティング	61
12.1	概要	61
12.2	パスワードを忘れた場合	61
12.3	アプリケーションが落ちた場合	64

第1章 ご利用にあたって

1.1 はじめに

この度は File Defender をお買い上げ、ご利用いただき、誠にありがとうございます。

本製品を正しくお使いいただくために、本マニュアルをよくお読みになってからご使用ください。

当社は、本製品の誤った使用、使用中に生じた故障、その他不具合によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、一切その責任を負いませんので、予めご了承ください。

本製品の内容の全部または一部を、当社に無断で複製することはお断りします。

本製品はインターネット上での利用を目的としておりますので、ログイン ID、パスワードはお客様で十分に注意の上管理してください。

本製品は不具合の修正を含め、改良のため予告なく変更することがあります。

1.2 File Defender について

File Defender は、お客様の重要なファイルを暗号化により強力に保護し、組織内外でやり取りされる機密情報の漏洩を防ぐエンドポイントのセキュリティ対策ソリューションです。3 つの大きな特徴があります。

ファイル暗号化

暗号化されたファイルは、閲覧者に応じて異なる操作権限を付与することが可能です。

取引先やプロジェクトなど関係者のみ閲覧可能なアクセス制御も個別に設定が行えます。

ファイルの追跡

暗号化されたファイルに対する操作は、全て File Defender サーバー上でロギングが行えます。

PC 端末からのファイル持ち出しや漏洩事故の際の証跡分析も素早く行えます。

自由度の高い拡張子対応

File Defender の暗号化方式は、ファイルの形式や拡張子に依存しない汎用性の高い技術を使用しています。

暗号化したファイルは、今まで通りの暗号化していないファイルと同様の操作で、暗号化した状態で操作ができます。

1.3 動作環境

対応 OS	Microsoft® Windows® 8.1 / 10 (x86/x64)
インストール要件	Microsoft .NET Framework 4.6.1 以上 Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable (x86/x64) 14.16.27027 以上 ※ 満たしていない場合は、セットアップ時に自動的にインストールされます
CPU	周波数 2.0 GHz 以上
メモリ	4 GB 以上
ハードディスク	必須空き容量 20MB 以上 ※ インストール要件を満たしていない場合は、別途データ領域が必要です(約 80MB)

1.4 動作保証アプリケーション

File Defender で暗号化したファイルは、以下アプリケーションの(閲覧・編集・保存)操作を保障しています。

※ 暗号化ファイルを利用中は、利用アプリケーションの設定やログ情報が反映されなくなります

会社名	アプリケーション名
Microsoft	メモ帳
	ワードパッド
	ペイント
	フォト ビューアー
	Word 2010 / 2013 / 2016
	Excel 2010 / 2013 / 2016
	PowerPoint 2010 / 2013 / 2016
Adobe	Adobe Acrobat Reader DC
Autodesk	AutoCAD
※ ₁	Jw_cad

※₁ フリーソフトウェア

第2章 ご利用の流れ

File Defender クライアントアプリケーション(以降クライアント)のご利用の流れは以下の通りです。



① インストール

クライアントのインストールを行います。

『P. 4 第3章 インストール・アンインストール』参照

② ログイン

インストールが終了したらクライアントを起動し、ログインする必要があります。

『P. 10 第4章 ログイン』参照

③ 各ファイル操作

- ファイルを暗号化する
『P. 24 第6章 ファイル暗号化』参照
- ファイルを復号する
『P. 46 第8章 復号』参照
- ファイルを閲覧・編集する
『P. 52 第11章 ファイルの操作制御』参照

④ 終了

クライアントを終了、またはログアウトする。

『P. 49 第10章 ログアウト・終了』参照

トラブルシューティング

➤ 暗号化ファイルの編集中に、制御中のアプリケーションが落ちた場合。『P.64 12.3 アプリケーションが落ちた場合』参照

➤ パスワードを忘れた場合。『P. 61 12.2 パスワードを忘れた場合』参照

※ その他不明点などは、サポートページをご覧ください

『P.23 5.5 ヘルプ・サポート』参照

第3章 インストール・アンインストール

3.1 概要

クライアントのインストール・アンインストールを行います。インストールは File Defender インストーラーファイルから実行することができます。アンインストールは Windows におけるアプリのアンインストール手順を用いて行います。

3.2 ダウンロード

クライアントのインストーラーファイルは、File Defender の WEB ページのログイン画面からダウンロードすることができます。お使いの端末に合わせて 32bit、または 64bit のインストーラーを選択してダウンロードしてください。

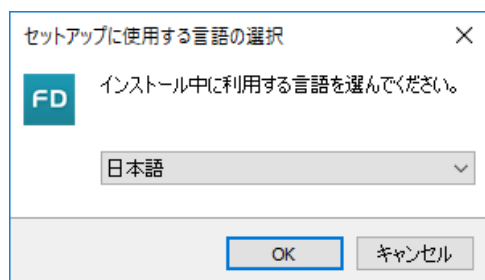
`http(s)://(設定された IP アドレス、もしくはホスト名)/login`



3.3 インストール

ダウンロードしたインストーラーファイルを実行すると、セットアップウィザードが立ち上がります。

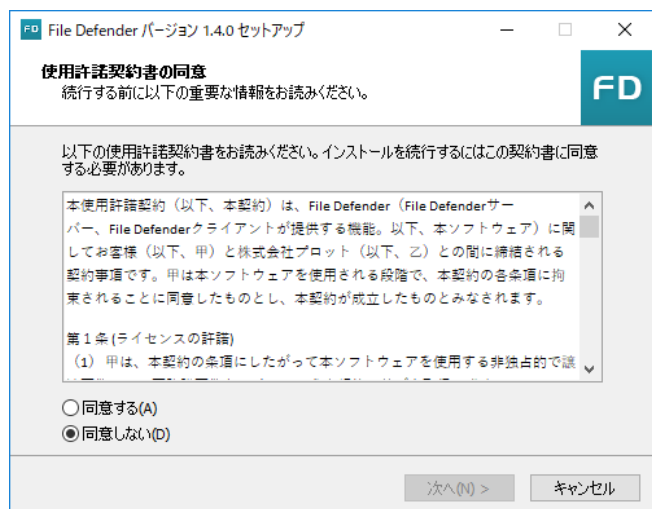
セットアップの手順を説明します。



Step 1

セットアップウィザード内の言語を選択します。

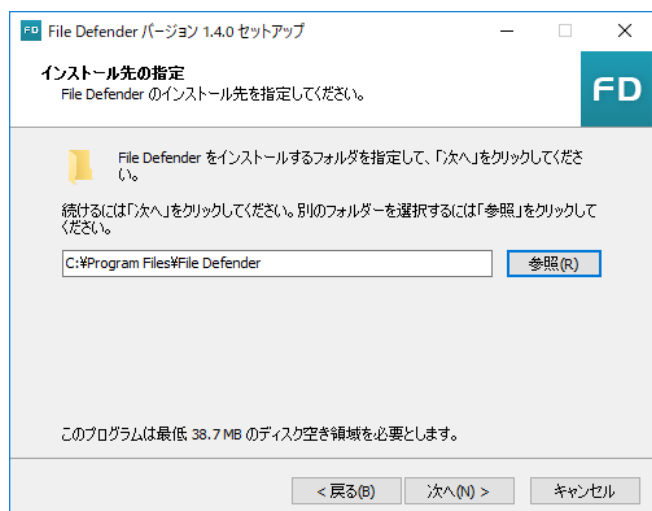
日本語・英語のいずれかを選択し、[**OK**]ボタンをクリックします。



Step 2

クライアントの利用に対する使用許諾契約への同意を求める画面です。

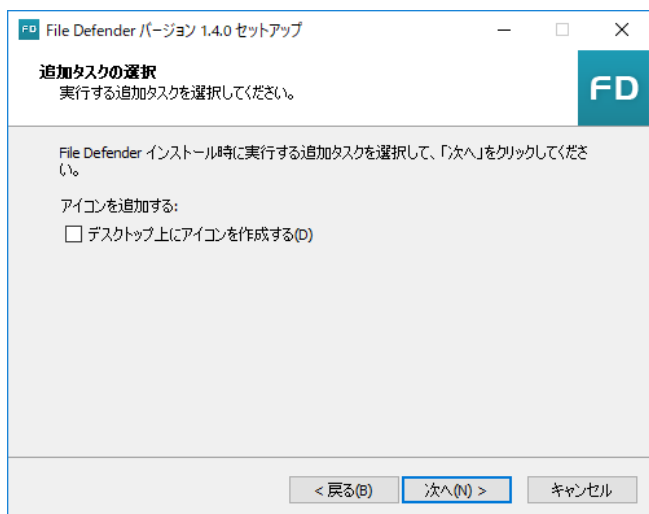
「**同意する(A)**」を選択し、[**次へ(N) >**]ボタンをクリックします。



Step 3

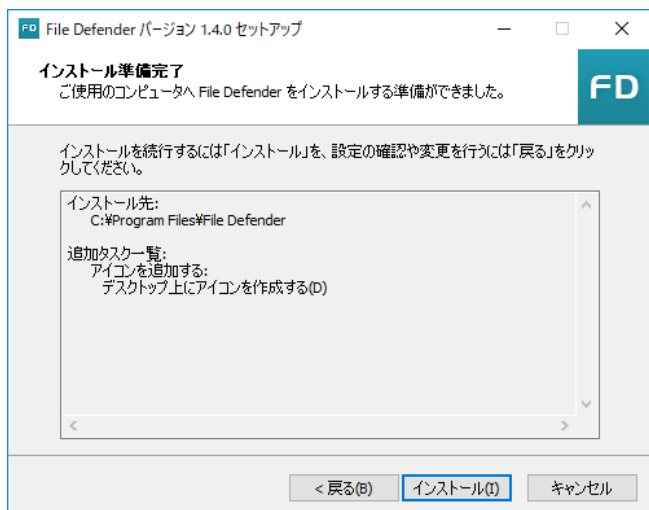
クライアントのプログラムをインストールするディレクトリを指定します。

ディレクトリを指定し終えたら、[**次へ(N) >**]ボタンをクリックします。



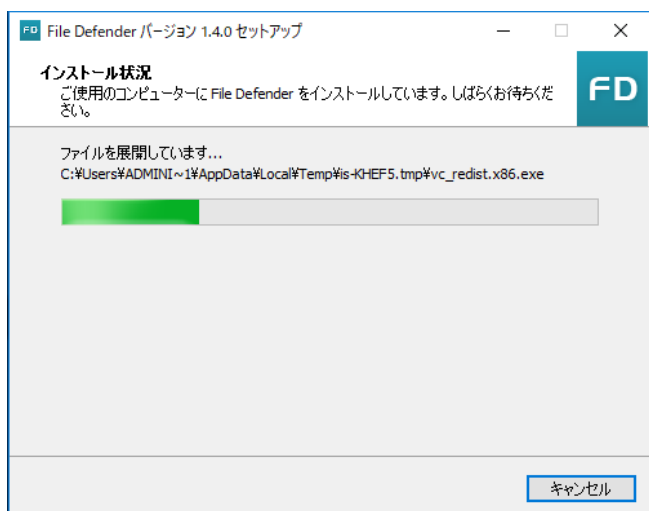
Step 4

追加タスクで、アイコンを追加するかを選択します。
デスクトップ上に「**アイコンを作成する(D)**」にチェックを入れると、インストール後にクライアントの実行ファイルのショートカットがデスクトップ上に作成されます
設定し終わったら、[**次へ(N)>**]ボタンをクリックします。
※チェック推奨



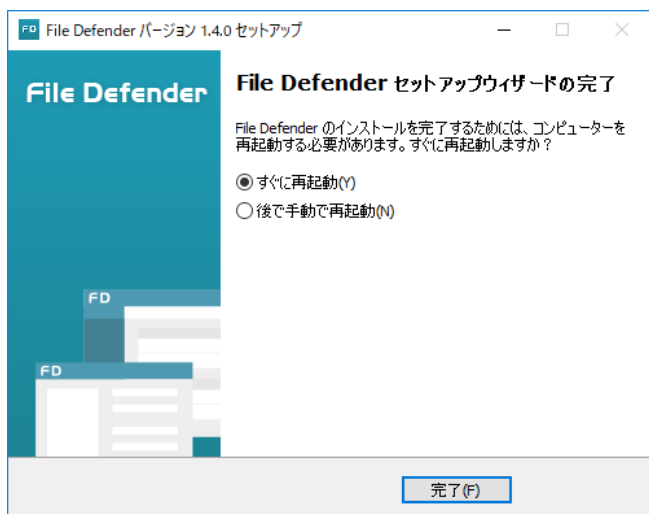
Step 5

セットアップウィザードで設定した内容を確認します。
設定内容に問題が無ければ、[**インストール(I)**]ボタンをクリックし、インストールを実行します。



Step 6

インストール実行中の状況を確認します。
インストール完了後、自動的に完了画面が表示されます。
※インストール中に[**キャンセル**]ボタンをクリックした場合、インストール内容が破棄されます



Step 7

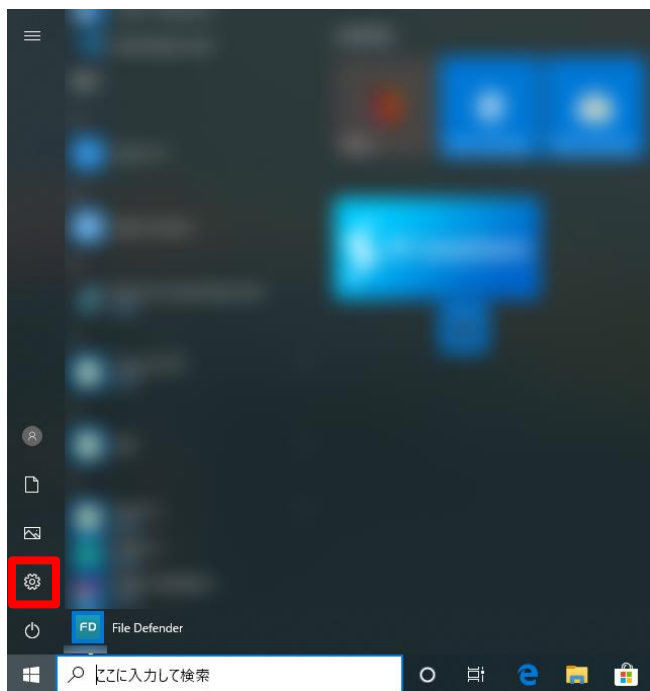
インストール完了後の画面です。

クライアントを利用するには、再起動が必要になります。

※「**すぐに再起動(Y)**」で[**完了(F)**]ボタンをクリックすると直後に PC が再起動しますのでご注意ください

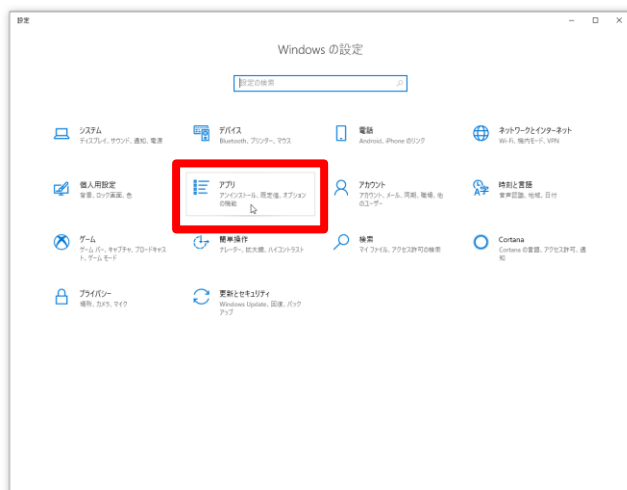
3.4 アンインストール

クライアントをアンインストールする場合は Windows におけるアプリのアンインストール手順によって行います。



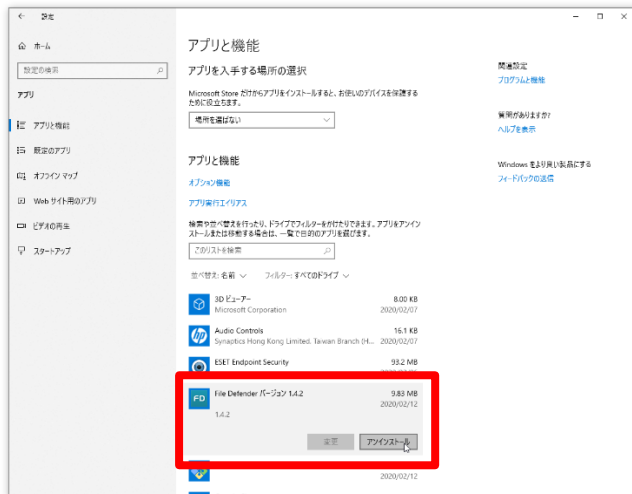
Step 1

Windows[**スタート**]ボタン（窓マーク）をクリックし、表示されたメニューから[**設定**]ボタン（歯車マーク）をクリックします。



Step 2

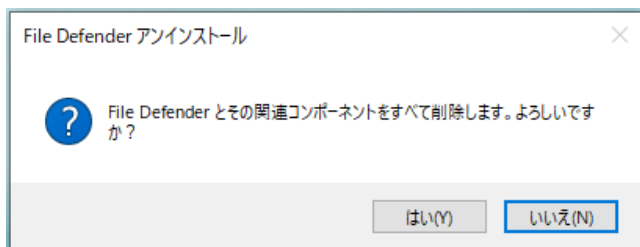
Windows の設定画面が表示されますので、[**アプリ**]ボタンをクリックします。



Step 3

アプリと機能画面が表示されますので、[**アンインストール**] ボタンをクリックし、表示される[**アンインストール**] ボタンもクリックします。

- ※ 操作の許可を求められた場合は、(必要ならパスワードを入力の上) [**はい**] ボタンをクリックしてください
- ※ アンインストールを行う際は、事前にクライアントアプリを終了させておいてください



Step 4

確認ダイアログが表示されますので、[**はい(Y)**] ボタンをクリックします。

アンインストールがはじまります。

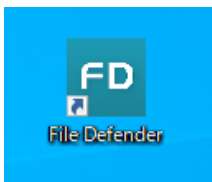
第4章 ログイン

4.1 概要

クライアントを起動すると設定の読み込みが始まります。設定読み込みが終了すると、ネットワーク設定が表示されるので、接続先の登録や編集を行い、File Defender サーバーにログインします。

4.2 クライアント起動

クライアント起動の手順を説明します。



Step 1

クライアントの実行ファイル(もしくはデスクトップのショートカットアイコン)をダブルクリックします。

Step2

スプラッシュ画面が起動します。

設定の読み込みが終わるとネットワーク設定画面が表示されます。

Step3

ネットワーク設定が表示されます。

4.3 ネットワーク設定

ネットワーク設定画面では、File Defender にログインするための情報の保存・削除が行え、保存した設定毎に切り替えてログインすることができます。

- ネットワーク設定を**新規登録**する
- ネットワーク設定を**削除**する

4.3.1 新規登録

ネットワーク設定を新規登録します。

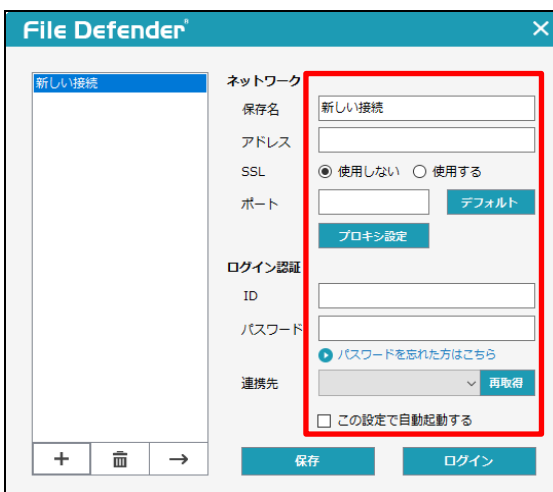


The screenshot shows the 'File Defender' window with the 'ネットワーク' (Network) tab selected. On the left, there is a list of saved network settings. At the bottom of this list, a red box highlights the '+' button, which is used to add a new network setting. To the right of the list, there are input fields for '保存名' (Save Name), 'アドレス' (Address), 'SSL' (with radio buttons for '使用しない' and '使用する'), 'ポート' (Port), and 'ログイン認証' (Login Authentication) with fields for 'ID' and 'パスワード'. There are also buttons for 'プロキシ設定' (Proxy Settings), 'デフォルト' (Default), '再取得' (Refresh), and checkboxes for 'この設定で自動起動する' (Automatically start with this setting).

Step 1

[+]ボタンをクリックします。

「新しい接続」のネットワーク設定が新規追加されます。



The screenshot shows the 'File Defender' window with the 'ネットワーク' (Network) tab selected. The '新しい接続' (New Connection) form is highlighted with a red box. The form contains the same input fields as the previous screenshot: '保存名' (Save Name), 'アドレス' (Address), 'SSL' (with radio buttons for '使用しない' and '使用する'), 'ポート' (Port), and 'ログイン認証' (Login Authentication) with fields for 'ID' and 'パスワード'. There are also buttons for 'プロキシ設定' (Proxy Settings), 'デフォルト' (Default), '再取得' (Refresh), and checkboxes for 'この設定で自動起動する' (Automatically start with this setting).

Step 2

「新しい接続」のネットワーク設定の内容を入力します。

保存名：左側ネットワーク一覧に表示される名前

アドレス：File Defender サーバーのアドレス部分を記入

例) sample.filedefender.jp

SSL：File Defender サーバーとの通信方法

ポート：接続するポート番号

ID：サーバーで発行されたユーザーの ID

パスワード：サーバーで発行されたユーザーのパスワード

連携先：LDAP 連携しているユーザーは、選択の必要があります

この設定で自動起動する：PC 起動時に自動でクライアントの起動からログインする場合にチェック

アドレス

SSL ☒ 使用しない ☐ 使用する

ポート

プロキシ設定

ログイン認証

Step 3

プロキシサーバーの設定が必要な場合は、[**プロキシ設定**] ボタンをクリックします。

File Defender

プロキシ設定

☐ プロキシ設定を使う

サーバーアドレス

ポート

☐ 認証が必要

ユーザー

パスワード

設定 **閉じる**

Step 4

利用しているプロキシサーバーの内容を入力します。
入力後、[**設定**] ボタンをクリックします。

File Defender

新しい接続

ネットワーク

保存名 接続先サンプル

アドレス sample.plott.co.jp

SSL ☒ 使用しない ☐ 使用する

ポート 80 **デフォルト**

プロキシ設定

ログイン認証

ID sample

パスワード ●●●●●●

[パスワードを忘れた方はこちら](#)

連携先 なし **再取得**

☐ この設定で自動起動する

保存 **ログイン**

Step 5

[**保存**] ボタンをクリックします。

File Defender

ネットワーク設定を保存しました。

11:35
2019/09/25

Step 6

ネットワーク設定の保存の通知が表示されます。

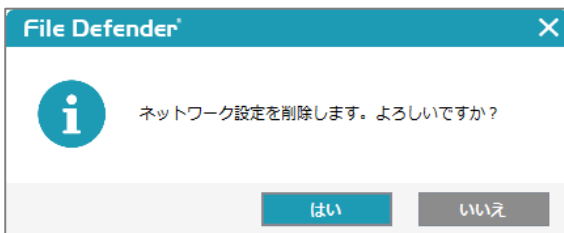
4.3.2 削除

ネットワーク設定を削除します。



Step 1

削除するネットワーク設定を選択します。
選択後、[ごみ箱] ボタンをクリックします。



Step 2

ネットワーク設定の削除の確認が表示されます。
[はい] ボタンをクリックします。



Step 3

ネットワーク設定の削除が行え、ネットワーク設定欄から削除されました。

4.4 ログイン

ネットワーク設定を入力後にログインボタンをクリックすることで File Defender サーバーにログインします。



The screenshot shows the File Defender login interface. On the left, there is a list of connection samples with a button labeled '接続先サンプル'. Below this list are three buttons: '+', a trash icon, and '→'. The '→' button is highlighted with a red box. On the right, there are input fields for 'ネットワーク' (Network) settings: '保存名' (Save Name), 'アドレス' (Address), 'SSL' (radio buttons for '使用しない' and '使用する'), 'ポート' (Port), and a 'プロキシ設定' (Proxy Settings) button. Below these are 'ログイン認証' (Login Authentication) fields: 'ID', 'パスワード' (with a 'パスワードを忘れた方はこちら' link), and a '連携先' (Link) dropdown with a '再取得' (Re-obtain) button. At the bottom right, there are '保存' (Save) and 'ログイン' (Login) buttons.

Step 1

利用したいネットワーク設定を選択します。
選択後、[→]ボタンをクリックします。

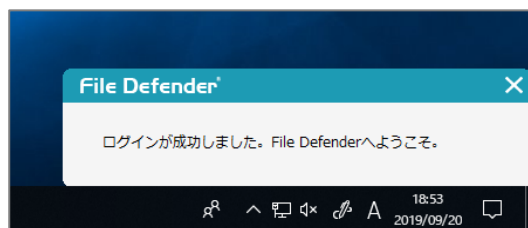
利用したいネットワーク設定をダブルクリックした場合でも同様の動きとなります。



The screenshot shows the File Defender login interface after a network setting has been selected. The '接続先サンプル' button is now highlighted with a blue bar. The '→' button is no longer highlighted. The 'ネットワーク' section now contains filled-in values: '保存名' is '接続先サンプル', 'アドレス' is 'sample.plott.co.jp', 'ポート' is '80', and 'SSL' is '使用しない'. The 'ログイン認証' section has 'ID' as 'sample' and 'パスワード' as a series of dots. The '連携先' dropdown is set to 'なし'. The 'ログイン' button at the bottom right is highlighted with a red box.

Step 2

[ログイン] ボタンをクリックします。



Step 3

ログイン成功の通知が表示されます。

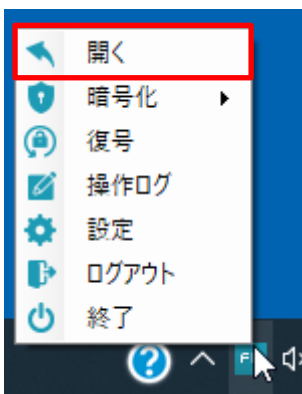
第5章 メイン画面

5.1 概要

メイン画面では、ログインしているユーザーの情報や、クライアントの設定、ヘルプやサポートの閲覧・設定を提供します。

5.2 ユーザー情報

ログインしている File Defender サーバー上のお知らせや、ユーザーの情報を表示し、確認することができます。



Step 1

タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを右クリックします。

右クリック後に表示されるメニュー内の「開く」をクリックします。タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを左クリックした場合でも同様の動きとなります。

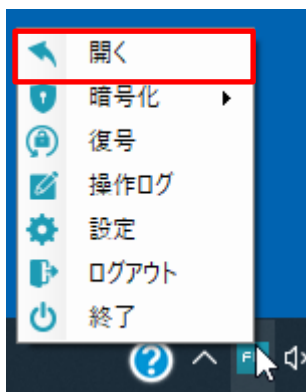


Step 2

ログインしているサーバーのお知らせや、ログインユーザーに関する情報が表示されます。

5.2.1 パスワード変更

クライアントからログインしているユーザーのパスワードを変更します。



Step 1

タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを右クリックします。右クリック後に表示されるメニュー内の「開く」をクリックします。タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを左クリックした場合でも同様の動きとなります。



Step 2

ログインしているサーバーのお知らせや、ログインユーザーに関する情報が表示されます。

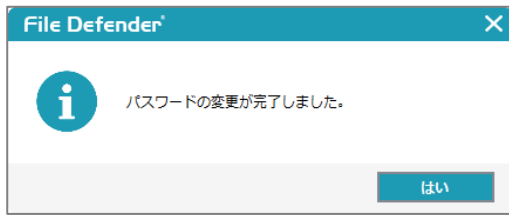
スクロールバーで下の方に移動し、パスワード欄の[変更はこちら]ボタンをクリックします。

※ LDAP ユーザーは、パスワードを変更することができません



Step 3

現在のパスワード・新しいパスワード、確認用を入力し、[変更]ボタンをクリックします。

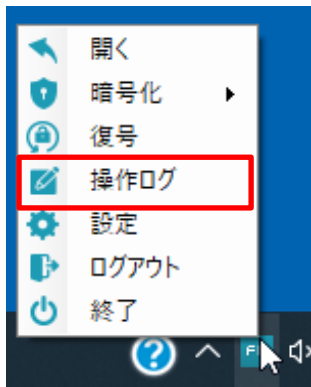


Step 4

パスワードの変更が完了します。

5.3 ファイル操作ログ

暗号化したファイル进行操作した(された)履歴を閲覧することができます。



Step 1

タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを右クリックします。

右クリック後に表示されるメニュー内の「**操作ログ**」をクリックします。タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを左クリックした場合でも同様の動きとなります。



Step 2

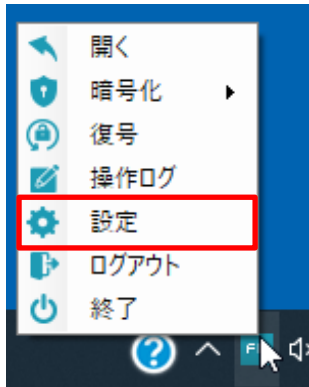
ファイルの操作ログの画面が表示されます。

権限によっては、所属しているプロジェクトのファイル全てや、自分の暗号化したもののみと閲覧できるログの範囲はユーザーによって異なります。

※ WEB ブラウザで確認も行えます

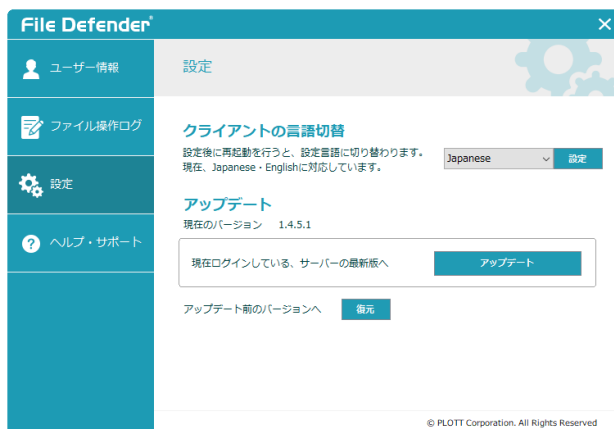
5.4 設定

クライアントの言語切り替えやクライアントのアップデートをすることができます。



Step 1

タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを右クリックします。右クリック後に表示されるメニュー内の「設定」をクリックします。



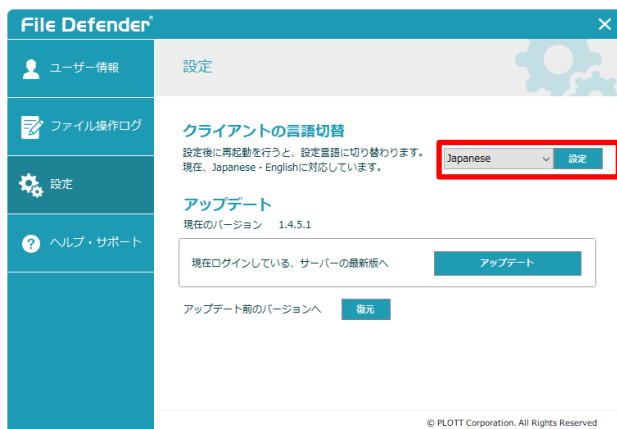
Step 2

言語切り替え、クライアントのアップデート・復元が行える画面が表示されます。

- 言語切り替え
- アップデート
- 復元

5.4.1 言語切り替え

クライアントの言語を日・英で切り替えます。

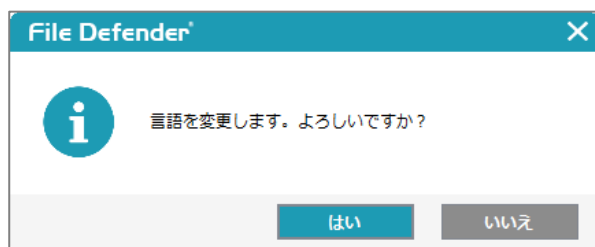


Step 1

クライアントの言語切り替えから、以下のいずれかを選択します。

- Japanese
- English

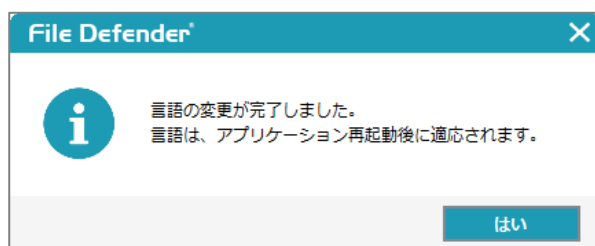
選択後、[設定] ボタンをクリックします。



Step 2

言語の変更の確認が表示されます。

[はい] ボタンをクリックします。



Step 3

完了確認が表示されます。

クライアントアプリケーションの再起動後に適用されます。

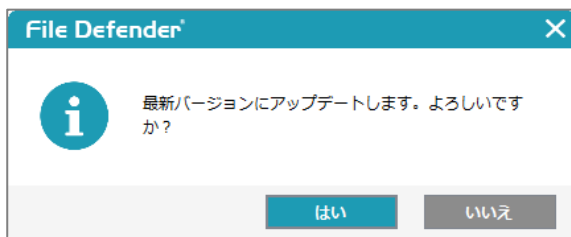
5.4.2 アップデート

File Defender サーバーが新しいバージョンである場合、クライアントをアップデートすることができます。



Step 1

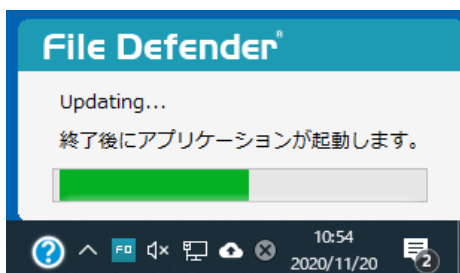
[アップデート] ボタンをクリックします。



Step 2

アップデートの確認が表示されます。

[はい] ボタンをクリックします。



Step 3

クライアントが終了し、PC 画面右下にアップデート処理画面が表示されます。



Step 4

クライアントのアップデートが終了すると、自動的にクライアントが起動します。

5.4.3 復元

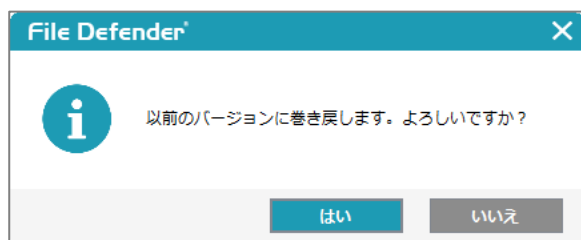
クライアントのアップデートを利用してバージョンアップした場合、アップデート前のバージョンに復元できる機能です。



Step 1

[復元] ボタンをクリックします。

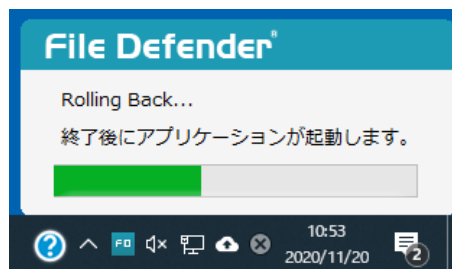
アップデートを利用していない場合は、ボタンのクリックが行えません。



Step 2

バージョンの巻き戻しの確認が表示されます。

[はい] をクリックします。



Step 3

クライアントが終了し、PC 画面右下に復元処理画面が表示されます。

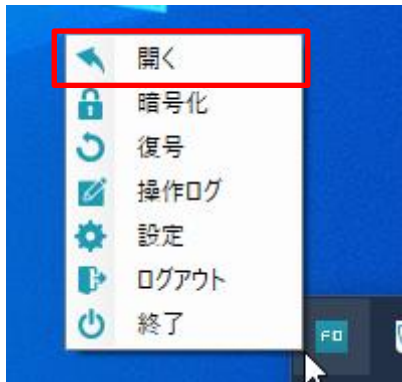


Step 4

クライアントの復元が終了すると、自動的にクライアントが起動します。

5.5 ヘルプ・サポート

クライアントマニュアルを閲覧や、サポートサイトへの接続が行えます。



Step 1

タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを右クリックします。右クリック後に表示されるメニュー内の「開く」をクリックします。



Step 2

メイン画面が表示されますので、サイドメニューの「ヘルプ・サポート」タブをクリックします。



Step 3

ヘルプ・サポートの画面が表示されます。

クライアントの使用方法を確認する場合は、
[PDF はこちら] ボタンをクリック。

Q&A やメンテナンス情報を確認する場合は、
[サポートサイトはこちら] ボタンをクリック。

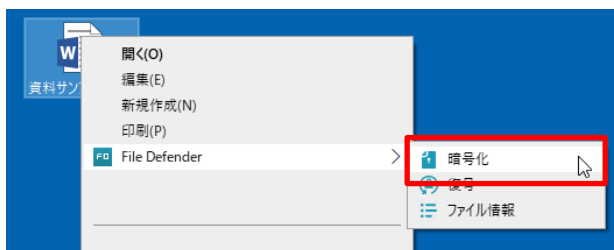
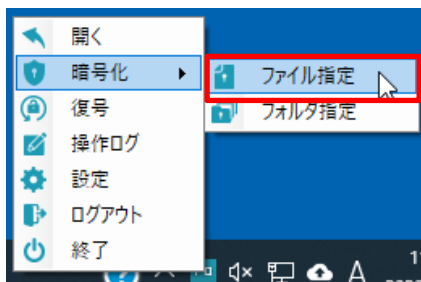
第6章 ファイル暗号化

6.1 概要

ファイルを暗号化します。暗号化したファイルは File Defender クライアントを起動しないとファイルを利用することができません。

6.2 画面表示

ファイル暗号化画面は、タスクバーのメニューから開く方法 / ファイルを選択して右クリックから開く方法 があります。



Step 1

・タスクバーのメニューから開く

タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを右クリックします。右クリック後に表示されるメニュー内の「暗号化→ファイル指定」をクリックします。

・ファイルを選択して右クリックから開く

ファイル上で右クリックし、メニューから「暗号化」をクリックします。



Step 2

暗号化画面が表示されます。

※ ファイルを選択して右クリックから開いた場合、対象ファイルに選択したファイルのフルパスが入力されます

※ 参加しているプロジェクトが1つもない場合は、利用できません

6.3 プロジェクト参加者確認

選択しているプロジェクトの参加者ユーザーを確認することができます。



Step 1

参加者を確認するプロジェクトを選択します。

選択後、右側のボタンをクリックします。



ユーザー名	プロジェクト管理者
システム管理者	管理者
伊藤さん	一般
佐藤さん	一般
渡辺さん	一般
田中さん	一般
鈴木さん	一般
高橋さん	一般

Step 2

プロジェクトに参加しているユーザーの一覧が表示されます。

6.4 暗号化

ファイルの暗号化に必要な情報(対象ファイル・プロジェクト・公開グループ)を入力し、暗号化ボタンをクリックすることでファイルが暗号化されます。

- ファイルを**全公開**で暗号化する
- ファイルを**公開グループ指定**して暗号化する

6.4.1 全公開

プロジェクトの参加者であれば全員が閲覧できる暗号化ファイルを作成します。

Step 1

暗号化するファイルをフルパスで入力します。

右の[参照]ボタンのファイルエクスプローラーから選択してください。また入力欄へファイルをドラッグ&ドロップすることでフルパスが入力できます。

※ ファイルの複数選択可能

Step 2

暗号化するファイルのプロジェクトを選択します。

その後、ファイルの閲覧回数・利用可能期限を設定したい場合は、入力を行います。

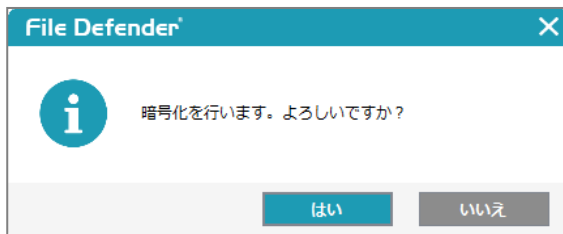
※ 入力がない場合は、回数・期限の設定は行われません



Step 3

[暗号化] ボタンをクリックします。

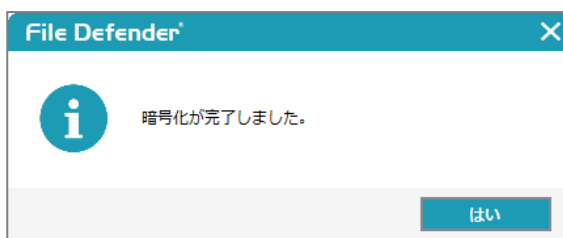
※ 対象のファイルは、直接暗号化されます



Step 4

暗号化の確認が表示されます。

[はい] ボタンをクリックします。



Step 5

完了確認が表示されます。

(暗号化前)



(暗号化後)



暗号化したファイルには、盾マークが付きます。

6.4.2 公開グループ指定

プロジェクト内で閲覧できる参加者を制限した暗号化ファイルを作成します。

File Defender®

暗号化

対象ファイル 参照

プロジェクト 絞り込み

サンプル案件 絞り込み

閲覧回数 回まで ※1~99の値を入力してください。

利用可能期間 ~

公開グループ ☒ 全て ☐ 指定する

暗号化 キャンセル

Step 1

暗号化するファイルをフルパスで入力します。

右の[参照]ボタンのファイルエクスプローラーから選択してください。また入力欄へファイルをドラッグ&ドロップすることでフルパスが入力できます。

※ ファイルの複数選択可能

File Defender®

暗号化

対象ファイル 参照

プロジェクト 絞り込み

サンプル案件 絞り込み

閲覧回数 回まで ※1~99の値を入力してください。

利用可能期間 ~

公開グループ ☒ 全て ☐ 指定する

暗号化 キャンセル

Step 2

暗号化するファイルのプロジェクトを選択します。

File Defender®

暗号化

対象ファイル 参照

プロジェクト 絞り込み

サンプル案件 絞り込み

閲覧回数 回まで ※1~99の値を入力してください。

利用可能期間 ~

公開グループ ☒ 全て ☐ 指定する

暗号化 キャンセル

Step 3

公開グループで「指定する」を選択します。

File Defender®

暗号化

対象ファイル: 資料サンプル.docx 参照

プロジェクト: プロジェクト名 絞り込み

サンプル案件 ▼ 👤

閲覧回数: 回まで ※1~99の値を入力してください。

利用可能期間: 📅 ~ 📅

公開グループ: ☐ 全て ☒ 指定する 公開グループを選択 👤

グループ名	種別	編集	コピー&ペースト

< >

暗号化 キャンセル

Step 4

公開グループの選択欄が下に表示されます。

📅 📅

指定する 公開グループを選択

種別	編集

Step 5

[公開グループを選択] ボタンをクリックします。

File Defender®

公開グループ編集

グループ名: 絞り込み 👤

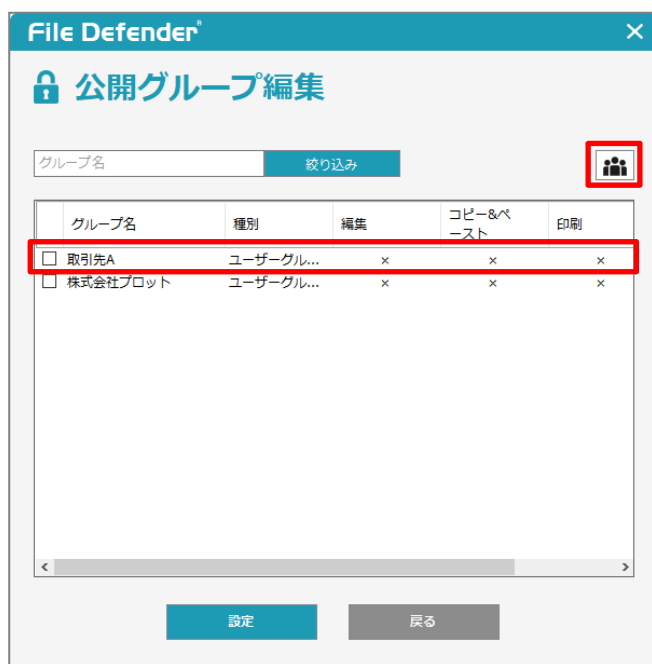
	グループ名	種別	編集	コピー&ペースト	印刷
<input type="checkbox"/>	取引先A	ユーザーグル...	×	×	×
<input type="checkbox"/>	株式会社プロット	ユーザーグル...	×	×	×

< >

設定 戻る

Step 6

暗号化画面から公開グループ編集画面に切り替わります。



Step 7

公開グループでのグループごとの参加者を確認する場合は、グループの行を選択します。

選択後、右上のボタンをクリックします。



Step 8

グループの参加ユーザーが表示されます。



Step 9

参加しているユーザーを確認しながら、公開するグループをチェックしていきます。

チェック後、[**設定**] ボタンをクリックします。



Step 10

指定した公開グループで、最終的なユーザーの権限を家訓する場合は、公開グループ一覧右上のボタンをクリックします。



Step 11

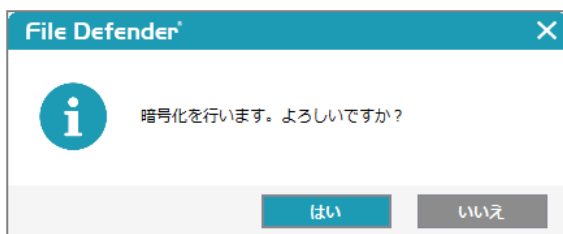
ユーザーの権限一覧画面が表示されます。



Step 12

[暗号化] ボタンをクリックします。

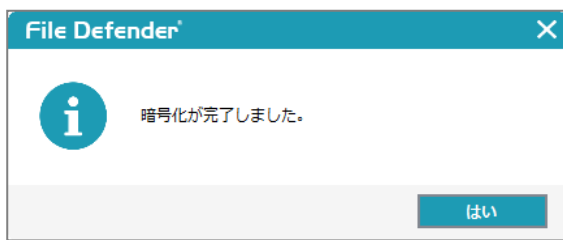
※ 対象のファイルは、直接暗号化されます



Step 13

暗号化の確認が表示されます。

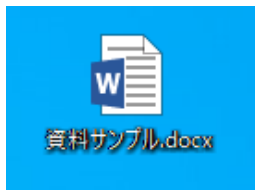
[はい] ボタンをクリックします。



Step 14

完了確認が表示されます。

(暗号化前)



(暗号化後)



暗号化したファイルには、盾マークが付きます。

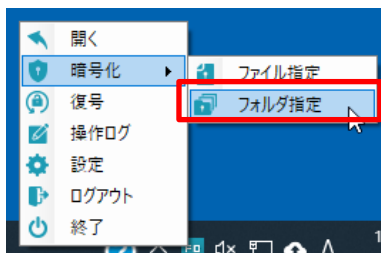
第7章 フォルダ暗号化

7.1 概要

指定したフォルダに暗号化情報を登録します。登録することで、以後指定フォルダに新規にファイルが追加されるたびに設定内容に基づいて当該ファイルの暗号化が自動的に行われるようになります。

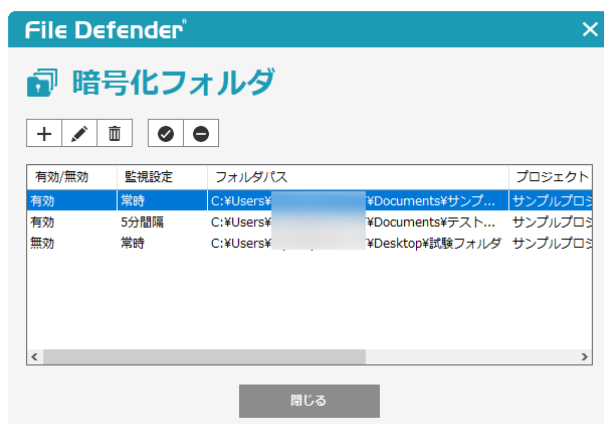
7.2 暗号化フォルダ画面の表示

暗号化フォルダ画面は、タスクバーのメニューから開くことができます。



Step 1

タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを右クリックします。右クリック後に表示されるメニュー内の「暗号化→フォルダ指定」をクリックします。



Step 2

暗号化フォルダ画面が表示されます。

7.3 暗号化フォルダ画面



- ① 新規に暗号化フォルダを追加します。暗号化情報画面が開きます。
- ② 指定した暗号化フォルダの暗号化情報編集を行います。暗号化情報画面が開きます。
- ③ 指定したフォルダを暗号化フォルダの一覧から削除します（フォルダそのものは削除されません）。
- ④ 指定したフォルダの自動暗号化を有効にします。
- ⑤ 指定したフォルダの自動暗号化を無効にします。
- ⑥ 登録されている暗号化フォルダの一覧です。
- ⑦ 暗号化フォルダ画面を閉じます。

7.4 暗号化情報画面

File Defender

暗号化フォルダ

対象フォルダ ① C:\Users\ ¥Documents¥サンプルフォルダ ② 参照

③ ☐ サブディレクトリを含む ⑤

監視設定 ④ ☐ 常時 ☒ 5 分間隔で監視する ※1~999の値を入力してください。

除外拡張子 ⑥ exe, dll

プロジェクト ⑦ プロジェクト名 絞り込み ⑧

⑨ サンプルプロジェクト ⑩

閲覧回数 ⑪ 10 回まで ※1~99の値を入力してください。

利用可能期間 ⑫ 2000/01/01 00:00 ~ 2050/12/31 00:00 ⑬

公開グループ ⑭ ☒ 全て ☐ 指定する 公開グループを選択 ⑮ ⑯

グループ名	種別	編集	コピー&ペースト
⑰			

⑱ 登録 キャンセル ⑲

- ① 暗号化情報を登録するフォルダのパスです。
- ② 暗号化情報を登録するフォルダを指定します(フォルダ参照ダイアログが表示されます)。
- ③ サブディレクトリ内のファイルにも暗号化を行う場合にはチェックします。
- ④ フォルダ監視を常時行い、新規ファイルが追加されたときに直ちに暗号化を行うときにはこちらを選択します。
- ⑤ フォルダ監視を時間間隔で行うときにはこちらを選択し、監視する時間間隔を分単位で入力します。
- ⑥ 暗号化を行わない拡張子を指定します。
- ⑦ 暗号化を行うプロジェクト名の絞り込みを入力します。
- ⑧ 暗号化を行うプロジェクトの絞り込みを行います。
- ⑨ 暗号化を行うプロジェクトを指定します。
- ⑩ プロジェクトへの参加者の確認を行います。プロジェクト参加者一覧画面が表示されます。
- ⑪ ファイルを閲覧できる利用回数を入力します。利用回数をこえるとファイルを利用できなくなります。空白の場合は制限がかかりません。
- ⑫ ファイルが利用可能な期間の開始日時を入力します。この日時より以前にはファイルを利用することができません。空白の場合は制限がかかりません。
- ⑬ ファイルが利用可能な期間の終了日時を入力します。この日時より以降にはファイルを利用することができません。空白の場合は制限がかかりません。
- ⑭ ファイルをプロジェクト内の全員に公開する場合はこちらを選択します。
- ⑮ ファイルの公開先を指定する場合はこちらを選択し、公開グループを指定します。公開グループについての詳細は 6.4.2 をご覧ください。
- ⑯ 選択した公開先グループへの参加者の確認を行います。公開グループ参加者一覧画面が表示されます。
- ⑰ 公開先グループの一覧です。
- ⑱ 暗号化情報の登録を行います。
- ⑲ 暗号化情報の登録をキャンセルし、画面を閉じます。

7.5 暗号化フォルダ新規登録

暗号化フォルダの新規登録を行います。



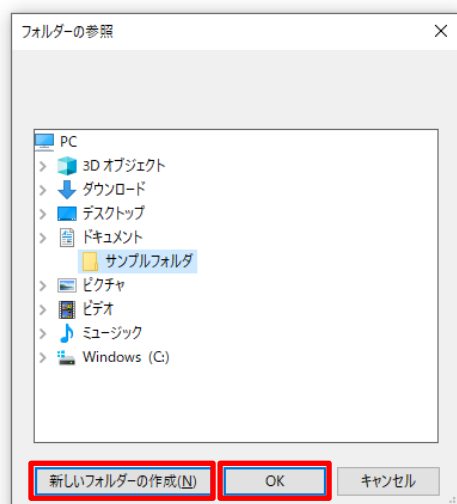
Step 1

暗号化フォルダ画面内の[+]ボタンをクリックします。



Step 2

暗号化情報画面が表示されますので、[参照]ボタンをクリックします。

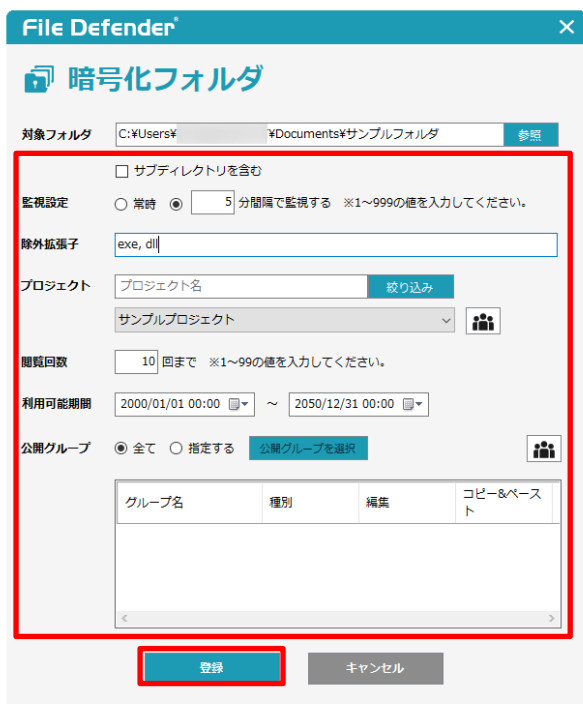


Step 3

フォルダ参照ダイアログが表示されますので、暗号化情報を登録したいフォルダを選択し、[OK]ボタンをクリックします（新規にフォルダを作成する場合は[新しいフォルダの作成(N)]ボタンから作成することができます）。

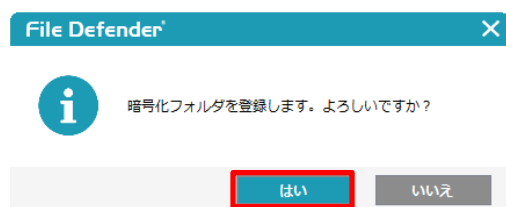
※空でないフォルダを暗号化フォルダとして新規登録することはできませんので、必ず空のフォルダを選択するようにしてください。

※すでに登録されている暗号化フォルダ配下のフォルダを暗号化フォルダとして新規登録することはできません。



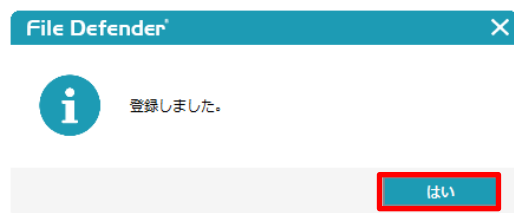
Step 4

暗号化情報の各設定値を入力し（それぞれの詳細については 7.4 をご覧ください）、[登録]ボタンをクリックします。



Step 5

確認ダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。



Step 6

登録処理が実行され、登録完了メッセージが表示されます。
[はい] ボタンをクリックします。



Step 7

暗号化フォルダが一覧に追加されます。

7.6 暗号化フォルダ編集

暗号化フォルダに登録されている暗号化情報の編集を行います。



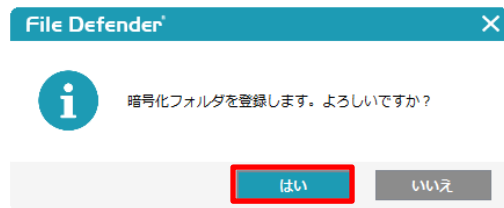
Step 1

暗号化情報を編集したいフォルダを選択し、[鉛筆] ボタンをクリックします。



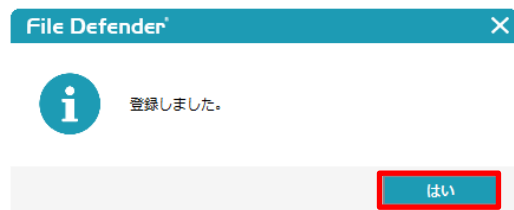
Step 2

暗号化情報画面が表示されますので、暗号化情報を編集し、[登録] ボタンをクリックします。



Step 3

確認ダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。



Step 4

登録処理が実行され、登録完了メッセージが表示されます。
[はい]ボタンをクリックします。



Step 5

暗号化フォルダに編集された暗号化情報が反映されます。

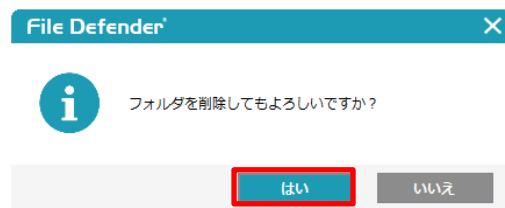
7.7 暗号化フォルダ削除

暗号化フォルダ一覧からフォルダの削除を行います。実際にフォルダが削除されるわけではありません。



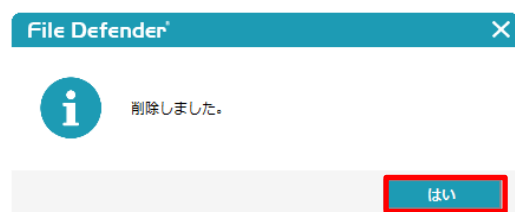
Step 1

一覧から削除したいフォルダを選択し、[**ゴミ箱**]ボタンをクリックします。



Step 2

確認ダイアログが表示されますので、[**はい**]ボタンをクリックします。



Step 3

削除処理が実行され、削除完了メッセージが表示されます。
[**はい**]ボタンをクリックします。



Step 4

暗号化フォルダ一覧からフォルダが削除されます。

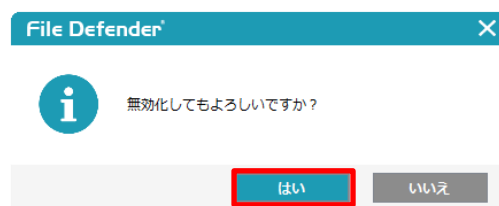
7.8 暗号化フォルダ有効化/無効化

暗号化フォルダの有効化/無効化を行います。無効となった暗号化フォルダは、新規にファイルが追加されてもファイルの暗号化は行われません。



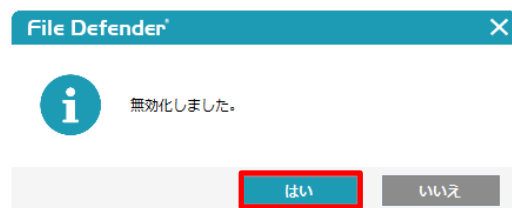
Step 1

一覧から有効化/無効化したいフォルダを選択し、有効化する場合は[**チェック**]ボタン、無効化する場合は[**停止**]ボタンをクリックします。



Step 2

確認ダイアログが表示されますので、[**はい**]ボタンをクリックします。



Step 3

処理が実行され、削除完了メッセージが表示されます。[**はい**]ボタンをクリックします。



Step 4

暗号化フォルダの有効/無効設定が変更されます。

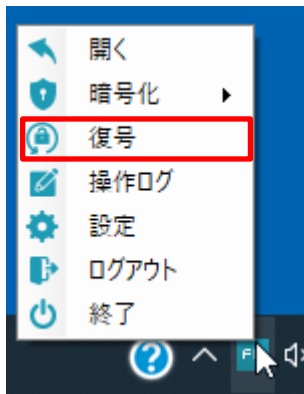
第8章 復号

8.1 概要

暗号化したファイルを元のファイルに戻す処理です。

8.2 画面表示

復号画面は、タスクバーのメニューから開く方法 / ファイルを選択して右クリックから開く方法 があります。



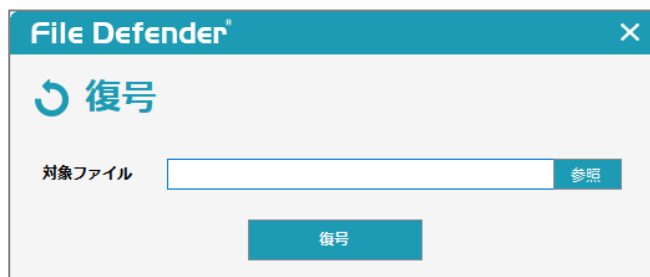
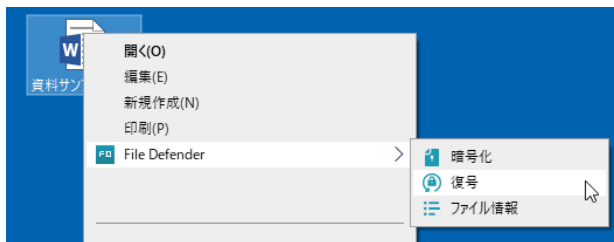
Step 1

・タスクバーのメニューから開く

タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを右クリックします。右クリック後に表示されるメニュー内の「復号」をクリックします。

・ファイルを選択して右クリックから開く

ファイル上で右クリックし、メニューから「復号」をクリックします。



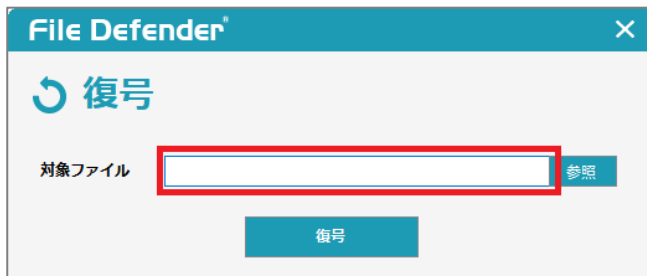
Step 2

復号画面が表示されます。

※ ファイルを選択して右クリックから開いた場合、対象ファイルに選択したファイルのフルパスが入力されます

8.3 復号

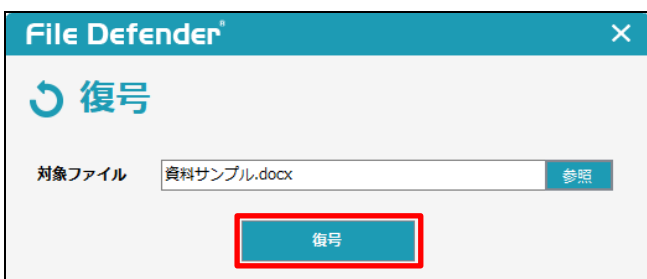
復号に必要な情報を入力し、復号処理を実行します。



Step 1

復号するファイルをフルパスで入力します。

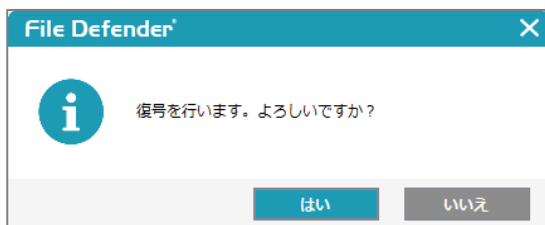
右の[参照]ボタンのファイルエクスプローラーから選択してください。また入力欄へファイルをドラッグ&ドロップすることでフルパスが入力できます。



Step 2

[復号]ボタンをクリックします。

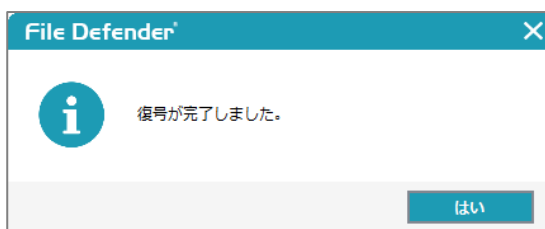
※ 対象のファイルは、直接復号されます



Step 3

ファイル復号の確認が表示されます。

[はい]ボタンをクリックします。



Step 4

完了確認が表示されます。

(復号前)



(復号後)



暗号化ファイルの鍵マークが外れます。

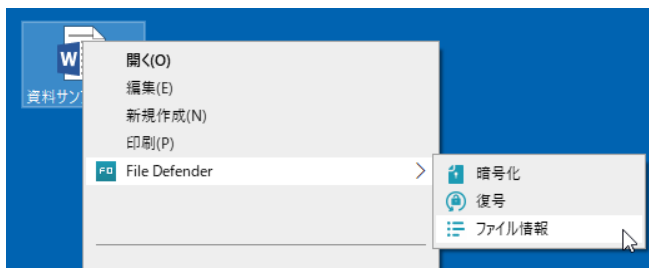
第9章 ファイル詳細

9.1 概要

暗号化されているファイルの情報を閲覧します。

9.2 画面表示

右クリックメニューからファイルの情報を閲覧するウインドウを表示させることができます。



Step 1

ファイルを選択して右クリックから開く

暗号化されているファイル上で右クリックし、メニューから「**ファイル情報**」をクリックします。



Step 2

暗号化されているファイルの設定情報を閲覧する画面が表示されます。

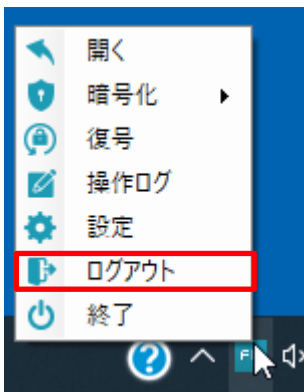
第10章 ログアウト・終了

10.1 概要

クライアントのログアウト・終了を行います。

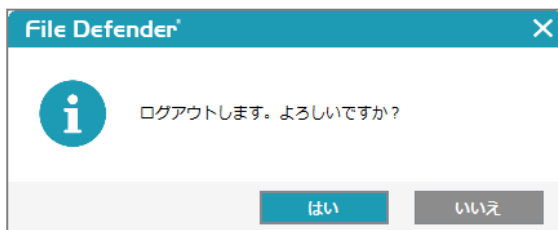
10.2 ログアウト

ログアウトを行うとログインしている情報を破棄し、ネットワーク設定画面が表示されます。



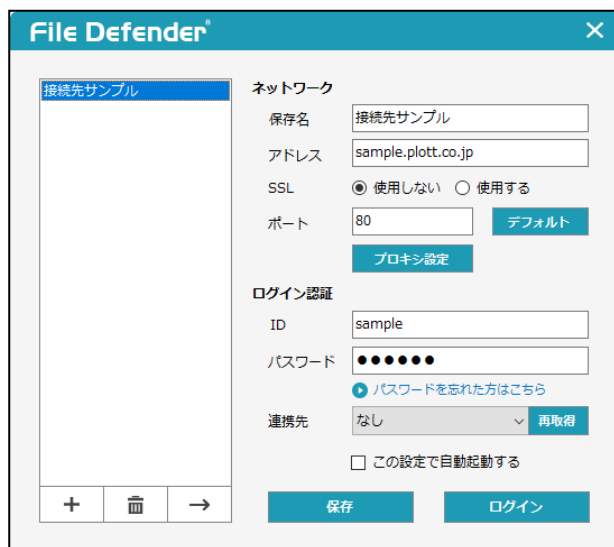
Step 1

タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを右クリックします。右クリック後に表示されるメニュー内の「**ログアウト**」をクリックします。



Step 2

ログアウトの確認が表示されます。
[**はい**] ボタンをクリックします。



File Defender

接続先サンプル

ネットワーク

保存名: 接続先サンプル

アドレス: sample.plott.co.jp

SSL: ☒ 使用しない ☐ 使用する

ポート: 80 [デフォルト](#)

[プロキシ設定](#)

ログイン認証

ID: sample

パスワード: ●●●●●●

[パスワードを忘れた方はこちら](#)

連携先: なし [再取得](#)

☐ この設定で自動起動する

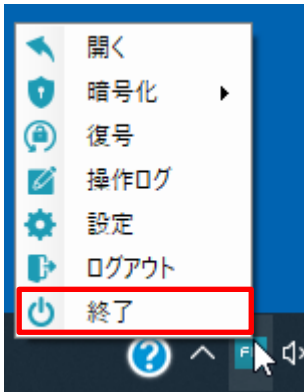
[保存](#) [ログイン](#)

Step 3

ログインしている情報が破棄され、ネットワーク設定画面が表示されます。

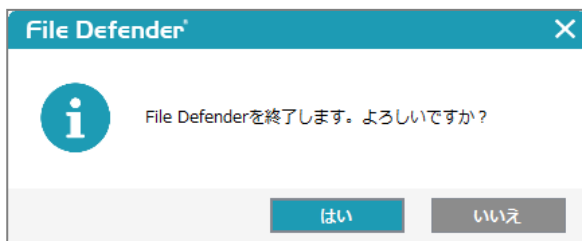
10.3 終了

終了を行うと、クライアントアプリケーションが終了します。



Step 1

タスクトレイ内にある File Defender のアイコンを右クリックします。右クリック後に表示されるメニュー内の「終了」をクリックします。



Step 2

ログアウトの確認が表示されます。
[はい] ボタンをクリックします。
クリック後、クライアントが終了します。

第11章 ファイルの操作制御

11.1 概要

クライアントで暗号化したファイルは、暗号化したときと同じ File Defender サーバーにログインしている状態であるときに閲覧・編集・保存することができます。

11.2 ファイルを開く

暗号化したファイルを開く方法は、今までのファイルを開く方法と変わりません。

File Defender から提供されているユーザーアカウントでクライアントをログインしてください。



Step 1

暗号化されたファイルをダブルクリックします。

※ PC 内以外のリモート(ファイルサーバー等)のファイルを開くことはできません

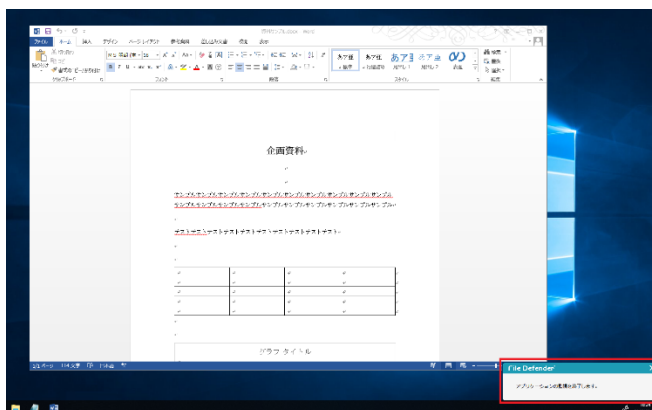


Step 2

確認ダイアログが表示されます。

開く場合は、[はい]ボタンをクリックします。

[いいえ]ボタンをクリックした場合は、ファイルを開くことはできません。

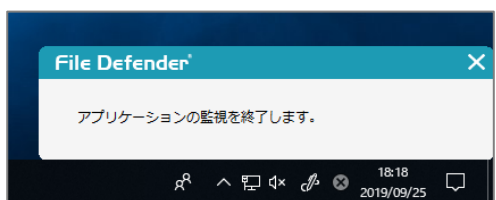
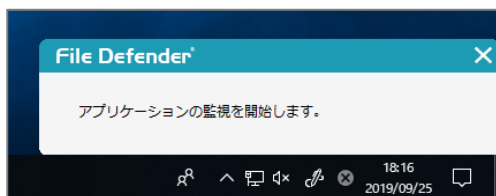


Step 3

閲覧する権限がある場合、正常にファイル拡張子に関連したアプリケーションで開くことができます。

開いたファイルには、操作の制限と禁止操作があります。

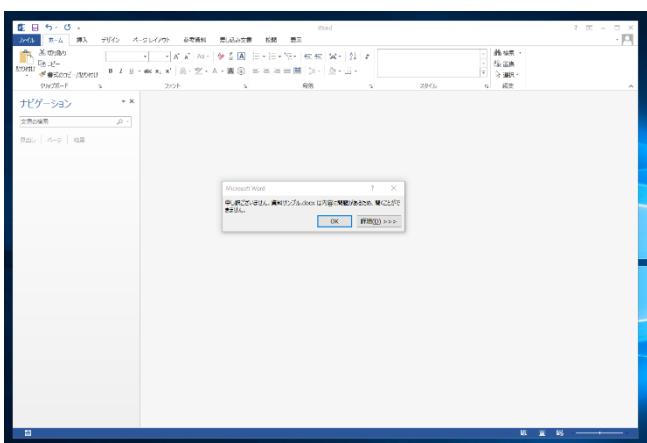
- ファイルの**制御操作**
- ファイルの**禁止操作**



Step 4

暗号化ファイルを開いているアプリケーションを終了した場合、監視の終了通知が表示されます。

※ 本通知が表示されない場合は、対象アプリケーションが制御下に置かれている状態です。制御下にある場合は、保存を行ったファイルに対して全て暗号化が行われますのでご注意ください。



【開けない場合】

- * ファイルを開く際に[いいえ]ボタンをクリックした
- * クライアントにログインしていない
- * ログインしているユーザーに閲覧の権限がない

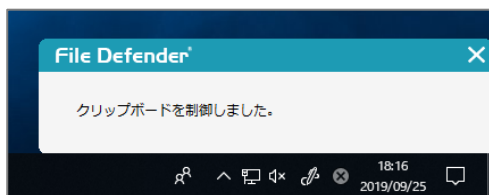
上記の場合、アプリケーションがファイルを開くことに失敗します。

その場合、暗号化したファイルは、壊れたファイル扱いとなりアプリケーションからエラーが出力されます。

11.2.1 制御操作

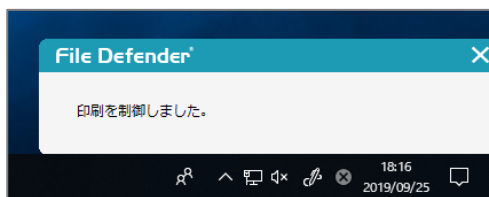
開いた暗号化ファイルの情報を持ち出される可能性がある操作をクライアントでは、制御を行っています。
プロジェクトやグループの設定次第で、以下制御を許可・不許可と**変更**することができます。

コピー& ペースト



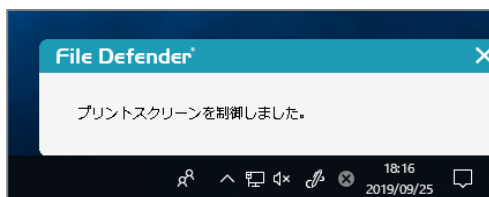
[Ctrl] + [C]キー やコピー機能をアプリケーション内で使用するとクリップボードへの格納を無効にし、制御通知が画面右下に表示されます。

印刷



アプリケーションの印刷機能を利用した場合、印刷処理が中断し、制御通知が画面右下に表示されます。

プリントスクリーン



アプリケーション制御中に[**Print Screen**]キーを押した場合、プリントスクリーンを無効にし、制御通知が画面右下に表示されます。

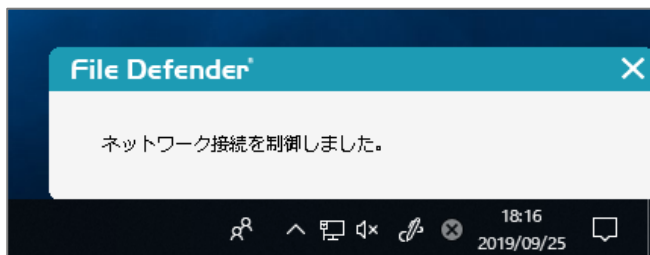
※ プリントスクリーン制御は、システム全体で[**Print Screen**]キーが無効になり、アプリケーション監視が全て終わると解除されます

11.2.2 禁止操作

アプリケーションから暗号化ファイル内の情報を持ち出される可能性がある操作を禁止しています。

1. アプリケーションの禁止操作

ネットワーク制御



暗号化したファイルの内容がアプリケーションからインターネット越しに通信で持ち出されないように一律ネットワーク通信の禁止制御を行っています。

ネットワーク通信が発生した場合、通信を遮断し、制御通知が画面右下に表示されます。

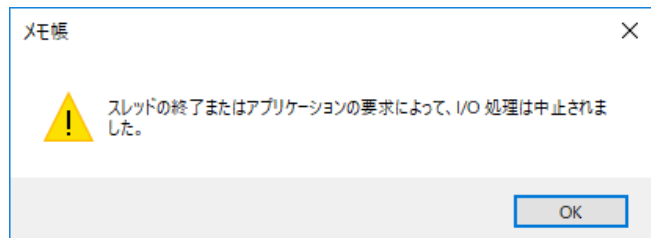
※ ネットワーク通信に含まれる対象

サインイン機能

アップデート機能

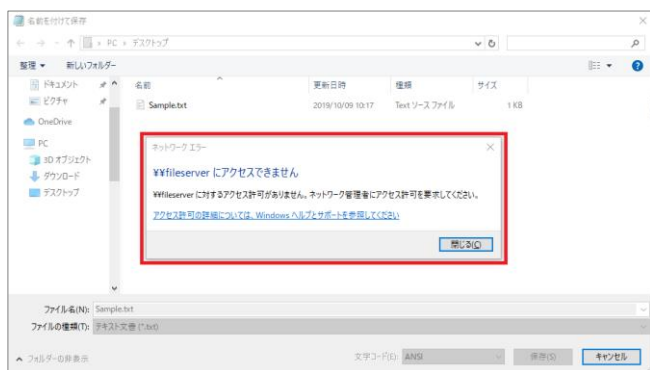
アップロード・ダウンロード機能 等

ファイル制御中に別アプリケーションからのアクセス



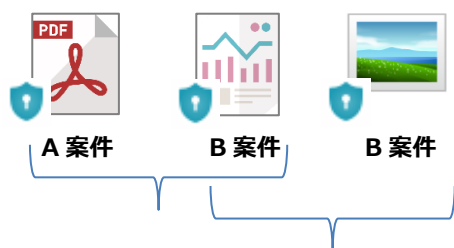
暗号化ファイルを開いている最中に、別のアプリケーション(プロセス)から開いている暗号化ファイルに触れることを禁止しています。

ネットワークフォルダへの出力



PC 内以外リモート(ファイルサーバー等)へのファイル出力を禁止しています。暗号化ファイルは、上書き保存や、PC 内に名前を付けて保存を行ってください。

同一プロジェクト以外のファイルを同時に開けない



× 同時に開けない ○ 同時に開ける

異なるプロジェクトで暗号化している暗号化ファイルは、同時に開くことは禁止しています。

3. 各アプリケーションの禁止操作一覧

会社名	アプリケーション名	禁止操作
Microsoft	メモ帳	電子メール送信
	ワードパッド	なし
	ペイント	電子メール送信
	フォト ビューアー	電子メール送信
	Word 2010 / 2013 / 2016	<ul style="list-style-type: none"> クリップボードの履歴機能、 PDF 出力の際にオプション「PDF/A 準拠」のチェックを入れた状態での出力機能 アカウントへのサインイン
	Excel 2010 / 2013 / 2016	
	PowerPoint 2010 / 2013 / 2016	
Adobe	Adobe Acrobat Reader DC	<ul style="list-style-type: none"> 電子メール送信 保護モード状態での閲覧 Adobe アカウントへのサインイン
Autodesk	AutoCAD	<ul style="list-style-type: none"> アカウントへのサインイン
	Jw_cad	なし

11.3 ファイルを保存する

暗号化ファイルの上書き保存・別名保存は、従来のアプリケーションと同じ方法で行えます。

上書き保存・別名保存の動きを説明します。

- ファイルを上書き保存する
- ファイルを別名で保存する

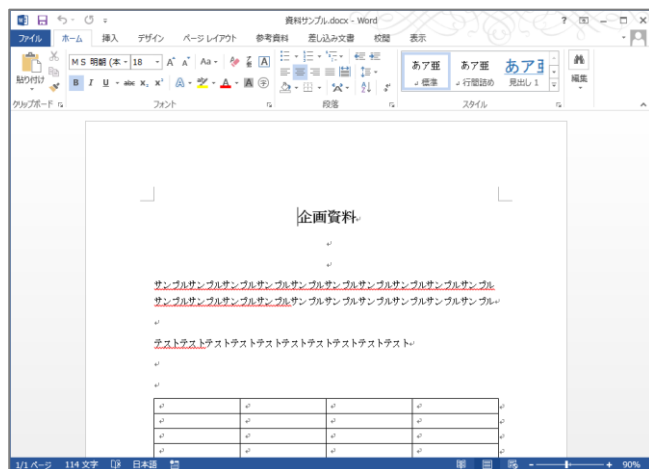
11.3.1 上書き保存する

ファイルを上書きした場合は、暗号化したままファイルに上書きされます。



Step 1

暗号化ファイルを開きます。



Step 2

ファイルの編集を行います。



Step 3

ファイルを開いたアプリケーションに準じた方法で、上書き保存を行います。



Step 4

編集した内容の上書きは、直接暗号化した状態で暗号化ファイルに上書きが行われます。

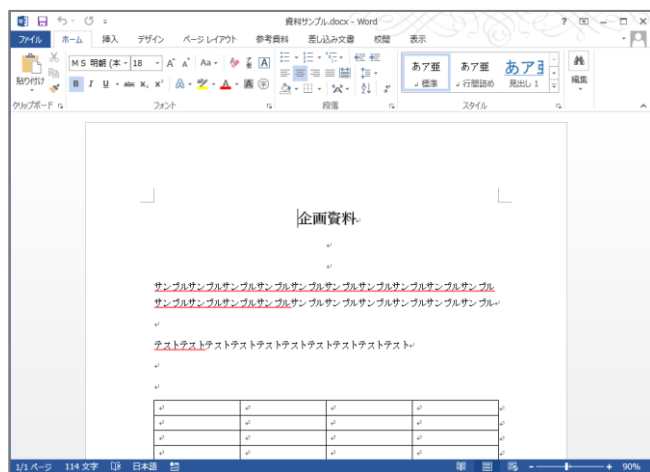
11.3.2 別名で保存する

別名保存したファイルは、暗号化されます。



Step 1

暗号化ファイルを開きます。



Step 2

ファイルの編集を行います。



Step 3

ファイルを開いたアプリケーションに準じた方法で、別名保存を行います。



Step 4

別名保存のため、ファイル名を変更します。
変更後、[保存(S)]ボタンをクリックします。

※ PC 内以外リモート(ファイルサーバー等)を保存先として設定することはできません



Step 5

保存後、暗号化されたファイルが別名で出力されます。

- ※ File Defender サーバー上のアプリケーション情報設定で、対応している拡張子で別名保存してください
- ※ 対応していない拡張子で別名保存をした場合、ファイルが出力されないためご注意ください


第12章 トラブルシューティング

12.1 概要

クライアントアプリケーションに問題が生じた際の対処や、復旧方法を載せていきます。
記述外の問題に関しては、サポートサイト(<https://support.plott.co.jp/>)をご確認ください。

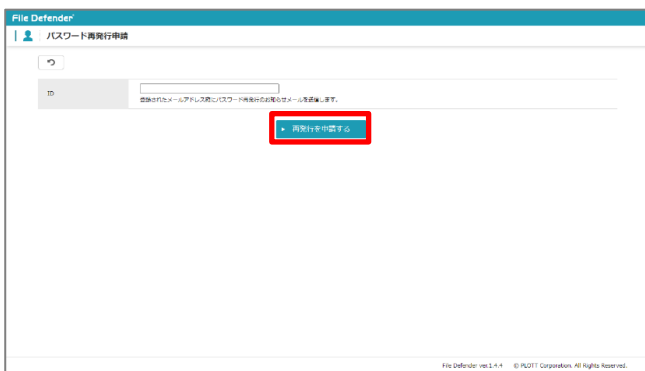
12.2 パスワードを忘れた場合

File Defender にログインするパスワードを忘れた場合の対処方法です。



Step 1

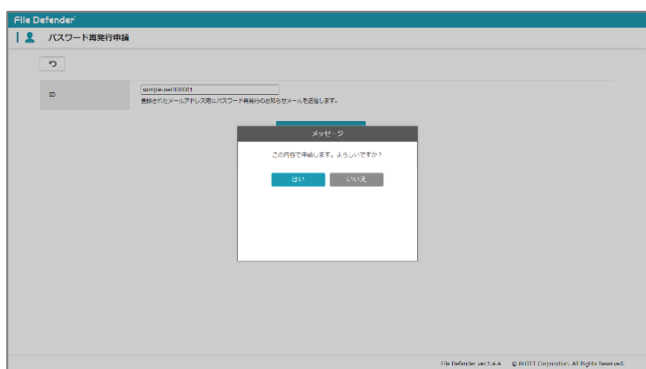
ネットワーク設定画面を表示し、「パスワードを忘れた方はこちら」リンクをクリックします。



Step 2

WEB ブラウザが起動し、パスワード再発行申請の画面が表示されます。

ID 欄にパスワードを忘れたユーザーの ID を入力し、[再発行を申請する] ボタンをクリックします。



Step 3

入力内容に問題がなければ、[はい] ボタンをクリックします。

申請を行うと、入力されたユーザーID のユーザーに設定されているメールアドレスへ再発行申請のメールが届きます。

パスワード再発行の依頼が行われました。
下記 URL へアクセスいただく事で、パスワードが再設定されます。

パスワード再発行用 URL :
http://localhost/user/reissue-password/access/*****

パスワードの再発行 URL は、お申し込みから 24 時間に限り有効です。
有効期限を経過しますと無効となりますのでご注意ください。

※本メールは送信専用となっておりますので、返信はしないでください。

Step 4

パスワード再発行のメールを受信します。

パスワード再発行メールに記載の URL へ 24 時間以内にアクセスします。

※ LDAP で連携したユーザーである場合は、パスワードの管理は File Defender では行っていないため再発行はできません。

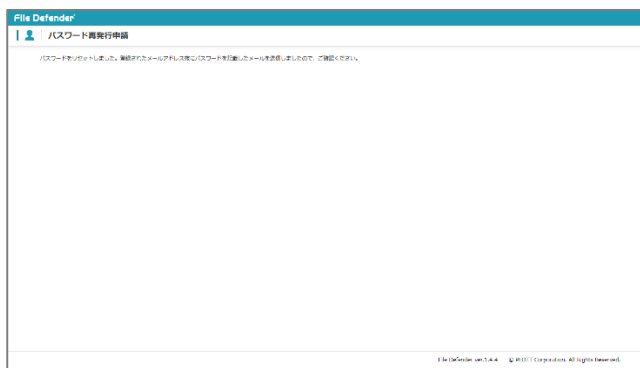
※ LDAP ユーザーの場合

ご依頼のユーザーは LDAP 認証を行っていますので、パスワード再発行を受け付けていません。

以下の URL からログインしてください。

URL : http:// (設定された IP アドレス、もしくはホスト名)

※本メールは送信専用となっておりますので、返信はしないでください。



Step 5

URL にアクセスすると、パスワードをリセットした旨の画面が表示されます。

同時に再発行されたパスワード通知のメールが届きます。

パスワードが再設定されました。

初期パスワード : *****

URL : http:// (設定された IP アドレス、もしくはホスト名)/

※本メールは送信専用となっておりますので、返信はしないでください。

12.3 アプリケーションが落ちた場合

暗号化ファイルを開いて編集している最中に、File Defender のクライアントが異常終了した場合の対応です。

Step 1

異常終了後、再度クライアントを起動し、ログインします。

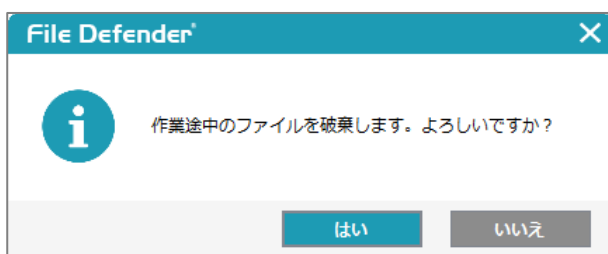
Step 2

ログイン後、作業途中のファイルを復元する画面が表示されます。



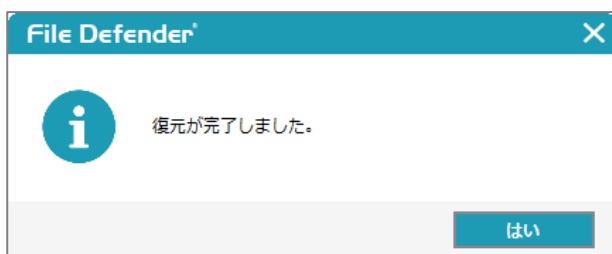
Step 3

作業途中で復元したいファイルを選択し、[復元]ボタンをクリックします。



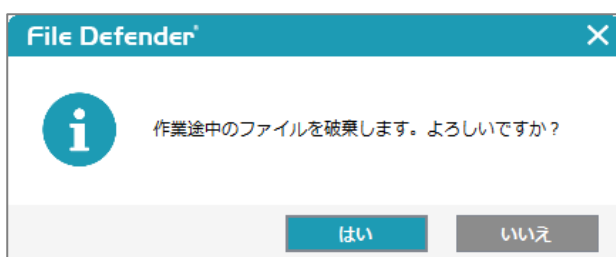
Step 4

ファイル復元の確認が表示されます。
[はい]ボタンをクリックします。



Step 5

完了確認が表示されます。



※ 復元せずに【閉じる】を選択した場合

復元せず、画面を閉じようとした場合、復元ファイルを破棄する確認メッセージが表示されます。
閉じる場合は、[はい]ボタンをクリックし閉じることができます。※但し、以降復元することはできません。

1. 本書の記載内容の一部または全部を無断で転載することを禁じます。
2. 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
3. 本書で使用されている登録商標および商標は、それぞれ各社に帰属します。
4. File Defender®は株式会社プロットの登録商標です。